

宇都宮 宗康 議員



一問一答方式

- ① 若宮古川の悪臭
- ② 就学前教育の充実
- ③ 大洲市環境センター
- ④ 痛ましい踏切事故の防止
- ⑤ 非正規職員の処遇改善

若宮古川の悪臭について

問 若宮古川の悪臭問題については、過去の議会で指摘したところであるが、その後どうなったのか。年度末を迎える現在でも改善されない現状となっているが、どのように考えられているのか。

答 昨年度の平成27年に悪臭対策として低水路を設置していただく

よう愛媛県に要望したところです。

愛媛県においては、平成28年度において、予算措置を目指したいとのことでしたが、厳しい財政状況の中で、本年度中の事業化はできなかったようです。しかし、引き続き事業化に向けて取り組みたいと伺っています。市としても、引き続き要望していきたいと考えています。

さらに、国に対しても、水環境改善について要望を行っているところです。

大洲市環境センターについて

問 大洲市環境センターは、廃棄物処理施設の老朽化によるごみ処理能力の不足や事故リスク増大といった事態を回避するために同一敷地内の場所建て替えを実施するとして

も、7、8年の計画準備を必要とされるものである。当然のごとく、環境アセスメントも必要とされる。

そこで、循環型社会形成のため、トータルとしての環境政策として下水道処理施設の汚泥処理も一体的に活用できる施設建設を行うべきでは

ないか。

答 新たに施設を検討する場合には、国の循環型社会形成推進交付金などを活用するためにも、高効率な廃

熱利用や大幅な省エネが可能な設備の導入により、得られるエネルギーを有効利用するいわゆる再生可能エネルギーの活用が求められています。そのため、下水道汚泥の処理を含め、発電設備やメタンガス発酵、炭化事業、その他あらゆる可能性を勘案しながら、より経済的で効果的な施設の検討を進めていきたいと考えています。

痛ましい踏切事故の防止について

問 東京の踏切で住民が手押し車を押して横断中、車輪がレールに挟まれ動けなくなり、電車にはねられるという痛ましい事故があった。

本市でもJR予讃線中村踏切でベビーカーや高齢者のつえが挟まったことがあり、肱川区住民からの強い要望を受け、私は本議会で質問をし、踏切の拡幅について訴えてきた。このたび、改正踏切道改良促進法に基

づき、事故防止対策の必要性が高い踏切道について要望をされたようだが、どのような結果になったのか現在の状況を伺う。

答 現状としては、平成28年4月1日に成立した踏切道改良促進法等の一部を改正する法律により、重点的に交付金が活用できるよう、法指定に向けて進めてきましたが、残念ながら平成28年度での法指定には至っていないのが現状です。



拡幅が望まれている中村踏切